

特集 2

第4回 フレンドシップサロン

医療産業への参入

～ものづくり中堅・中小企業の医療機器参入とPMDAへの取り組み～

主催 大阪商工会議所、一般社団法人 生産技術振興協会



開会挨拶

大阪商工会議所 中堅中小企業委員長

生産技術振興協会 副理事長

更家悠介

皆さん、本日はご参集いただき、まことに有難うございます。私は生産技術振興協会の副理事長とともに、大阪商工会議所の中堅中小企業委員長をやらせていただいております。そこで私の願いは、大阪が元気になって、中堅中小企業の方々が新しい分野でビジネスを拡大していただくことです。

さて大阪府の域内生産は、だんだん落ちてきて、現在は36兆円です。国のGDPは440～450兆円です。大阪はその10%を超えていたのに、今では8%、7%とだんだん落ちてきています。これを何とかしなければなりません。1つはインバウンドのお客さんを増やそうと、商工会議所では「千客万来」の運動をしています。また先日は、当生産技術振興協会の主催で「水素やバイオマスなど持続可能エネルギー」の開発・利用のために、「水素社会の到来」や「バイオマスの活用」をテーマにした種々のセミナーを開催しています。

本日のテーマは「医療産業への参入」で、じつはこの分野がいちばん伸びる可能性があります。お年

寄りの方はどんどん増え、医療のニーズは高い。国際的にも、医療分野がますます伸びると予想されています。これを大阪でもどんどんやるべきだとして、本日のフレンドシップサロンが開催されました。大阪では医薬や医療器具の関連産業の伝統があります。また大学や研究機関も多くあり、また技術的なシーズも多く、これをぜひ皆さんの企業で発掘して、活用していただきたいと思います。

医薬品産業は、安全性や有効性の確認のため、国の製造や販売の許可が必要です。そこで、大阪に審査機関を誘致しようと、歴代の知事が力を入れてきましたが、やっとPMDA ウェストという審査機関が誘致できました。国の機関は敷居が高いとか、行きにくいという雰囲気がありますが、それを払拭しましょう。国から許可をもらうには、薬品や機器のエビデンスの作り方や審査のプロトコルがありますので、それを早めに理解して、そのプロトコルに合わせて開発をしていくことで、お金も時間も短縮できます。また知的資産をきちっと確保しながら、医療産業に参入していくことも重要です。それらもご理解いただき、また推進のためのネットワークもつくっていただければと思います。

最後は皆さんがその気にならないと物事は成就しません。皆さんが本日の講演、議論の内容を吸収され、ぜひ大阪のために、日本のために、世界のために、医薬品や医療機器の開発とビジネス拡大に臨んでいただく機会にしていきたいと思います。私はこれで大阪に新たに1兆円くらいの産業が生まれるのではないかと考えていますが、それを皆様方とともに実現したいと思っています。本日はどうもありがとうございました。